

平成15年人口動態統計（確定数） 石川県分の概況

「平成15年人口動態統計（確定数）の概況」[厚生労働省大臣官房統計情報部集計・9月8日公表（厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei03/index.html>）]による石川県関係分は、前年に比べ出生数・死亡数が増加し、死産数、婚姻件数、離婚件数は減少した。

[出生]

- ・ 出生数は、平成元年から平成13年までは、毎年1万1千人台で推移していたが、昨年から1万1千人を切っている。
平成15年の出生数は10,906人で、平成14年の10,886人より20人増加した。
- ・ 平成15年の出生率(人口千対)は9.3で、平成14年と同率である。
なお、全国平均は8.9で、本県はそれよりも高い。
- ・ 合計特殊出生率は、昭和40年代後半の第2次ベビーブームの後、低下傾向にあったが、平成15年の合計特殊出生率は1.38で、平成14年の1.37を上回った。(全国は過去最低となった。)
なお、全国平均は1.29で、本県はそれよりも高い。

[死亡]

- ・ 死亡数は、平成9年から平成14年までは、毎年9千人台で推移していたが、平成15年の死亡数は10,068人で、平成14年の9,584人より484人増加した。(昭和29年から平成14年までは1万人未満であった。)
- ・ 平成15年の死亡率(人口千対)は8.6で、平成14年の8.2を上回った。
なお、全国平均は8.0で、本県はそれよりも高い。
- ・ 死亡原因の順位は、第1位 悪性新生物 3,011人(人口10万対 256.7)、第2位 心疾患 1,555人(人口10万対 132.6)、第3位 脳血管疾患 1,350人(人口10万対 115.1)である。
- ・ また、平成15年の乳児死亡数は40人で、平成14年の42人より2人減少し、平成15年の乳児死亡率(出生千対)は3.7で、平成14年の3.9を下回った。
なお、乳児死亡率の全国平均は3.0で、本県はそれよりも高い。

(自然増加 前年を下回る)

- ・ 出生と死亡の差である自然増加数は 838人で、平成 14 年の 1,302人より 464人少なく、自然増加率(人口千対)は 0.7で、平成 14 年の 1.1を下回った。

なお、自然増加率の全国平均は 0.9で、本県はそれよりも低い。

[死産]

- ・ 死産数は、平成 9 年以降、毎年 300胎前後で推移しているところであるが、平成 15 年の死産数は 291胎で、平成 14 年の 305胎より 14胎減少し、平成 15 年の死産率(出生+死産 千対)は 26.0で、平成 14 年の 27.3を下回った。

なお、死産率の全国平均は 30.5で、本県はそれよりも低い。

[婚姻]

- ・ 婚姻件数は、平成 11 年以降、毎年 6 千件台で推移しているところであるが、平成 15 年の婚姻件数は 6,274組で、平成 14 年の 6,537組より 263組減少し、平成 15 年の婚姻率(人口千対)は 5.3で、平成 14 年の 5.6を下回った。

なお、婚姻率の全国平均は 5.9で、本県はそれよりも低い。

[離婚]

- ・ 離婚件数は、昭和 40 年代以降、増加傾向にあったが、昨年、今年と 2 年連続で減少した。平成 15 年の離婚件数は 2,160組で、平成 14 年の 2,208組より 48組減少し、平成 15 年の離婚率(人口千対)は 1.84で、平成 14 年の 1.88を下回った。

なお、離婚率の全国平均は 2.25で、本県はそれよりも低い。

人口動態総覧（石川県分）

| | 実 数 | | 率 | | 平均発生間隔 | |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------|-------------|
| | 平成 15年 | 平成 14年 | 平成 15年 | 平成 14年 | 平成 15年 | 平成 14年 |
| | | | | | 時 分 秒 | 時 分 秒 |
| 出 生 | 10,906 | 10,886 | 9.3 | 9.3 | 48: 12 | 48: 17 |
| 合計特殊出生率 | - | - | 1.38 | 1.37 | ・ ・ ・ | ・ ・ ・ |
| 死 亡 | 10,068 | 9,584 | 8.6 | 8.2 | 52: 12 | 54: 50 |
| 乳 児 死 亡 | 40 | 42 | 3.7 | 3.9 | 219: 00: 00 | 208: 34: 17 |
| 新 生 児 死 亡 | 22 | 27 | 2.0 | 2.5 | 398: 10: 55 | 324: 26: 40 |
| 自 然 増 加 | 838 | 1,302 | 0.7 | 1.1 | ・ ・ ・ | ・ ・ ・ |
| 死 産 | 291 | 305 | 26.0 | 27.3 | 30: 06: 11 | 28: 43: 17 |
| 自 然 死 産 | 147 | 168 | 13.1 | 15.0 | 59: 35: 31 | 52: 08: 34 |
| 人 工 死 産 | 144 | 137 | 12.9 | 12.2 | 60: 50: 00 | 63: 56: 30 |
| 周産期死亡 | 54 | 66 | 4.9 | 6.0 | 162: 13: 20 | 132: 43: 38 |
| 妊娠満22週以後の死産 | 39 | 46 | 3.6 | 4.2 | 224: 36: 55 | 190: 26: 05 |
| 早期新生児死亡 | 15 | 20 | 1.4 | 1.8 | 584: 00: 00 | 438: 00: 00 |
| 婚 姻 | 6,274 | 6,537 | 5.3 | 5.6 | 1: 23: 46 | 1: 20: 24 |
| 離 婚 | 2,160 | 2,208 | 1.84 | 1.88 | 4: 03: 20 | 3: 58: 03 |

(注) 1 平成15年、平成14年は確定数である。

2 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率は人口千対、乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産(出生+死産)千対であり、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産率は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千対である。

3 率算出に用いた人口は、平成15年10月1日現在推計日本人口 1,173,000人(総務省推計)、平成14年10月1日現在推計日本人口 1,174,000人(総務省推計)である。

主な用語の定義

自然増加：出生数から死亡数を減じたもの

合計特殊出生率：15歳～49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子供数に相当する。

乳児死亡：生後1年未満の死亡

新生児死亡：生後4週未満の死亡

早期新生児死亡：生後1週未満の死亡

死産：妊娠満12週以後の死児の出産

周産期死亡：妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたもの